

与えられた宿命を、立命に変えて…

あげましておめでとうございませす。「光陰矢のごとし」と申します、アツと言う間に一年が経過してしまつたような感が年々強まつてきています。

昨年は100年に一度の大不況と言われた一年でした。自民党から民主党へと政権交代もありました。まさに激動の一年だったと言えるでしょう。

さて、今年はどういう一年になるのでしょうか？読者の皆さんは、ワクワク楽しみですか？それとも不安に苛まれていますか？どちらにせよ、「人事を尽くして天命を待つ」以外にしようがありませんけどね。

何事も、過ぎたことに関してはどうだわらない方が良いでしょう。どうしてそうなつてしまつたのかと、反省して心の整理をする事は必要だと思います。その上で、今後はどうしたら良くなるのかと考えを明確にして、行動しなければいけないでしょう。良くも悪くも、過去は過去です。

そこから反省をし、そして自ら成長し、それを元に現在の状態からスタートを切る事が大切でしょう。

毎年「夢・目標」を自分自身掲げるわけですが、叶う目標もあれば、何年経つても叶えることが出来ていない夢や目標なんていうものもあります。けれど、「夢や目標を持つ」という気持ちは何より大事だと思います。皆さんの今年の夢や目標は何ですか？

ちなみに私の今年の夢・目標は、既に10項目ほどあります(笑)。私の場合、お陰様で毎年8割は実現しております。その夢・目標の核に据えている心情に次の様なものがあります：謙虚であり、互助の精神を失わないこと(菩薩行) 〓 自利(自分) より利他(他人) 〓 秘密より公開。競争(格差)より共生(協調)。浪費(無駄)より節約(無駄を省く)。分離(個人)より融合(協同)。エコノミー(節約)よりエコロジー(環境保護) 〓 等ということです。

現代人は、「便利」という名の下に、どこまでも個人主義(自分さえ良ければそれでよし)に陥つてしまい、それがために不安に苛まれているという悪循環が世の中を覆っているように思

ます。個人主義に陥るのは、「傷つきたくない」という恐怖心を支配してしまつていのでしょうか。しかし、傷つかないで、人生を生きていけるほど、人生は甘くありません。逆に傷ついてなんぼだと思いませんか？傷つかない人間が、傷ついた人間の心を思いやる事は出来ません。なぜなら、傷ついた経験がないからです。そう思えば、不必要な自分のプライドを潔(いさぎよく捨てて、世の中という大海原に飛び込んでいきましょう。その方がよっぽど有意義な人生を送ることが出来るのではないのでしょうか？

人間は一人では生きていけません。もし「私は誰とも触れ合うことなく、自分一人ですべて生きていますから心配しないで下さい」なんて言う方がおられたら、それはあなたの分を、周囲の人間が倍以上に頑張つて、あなたを補つてくれているということ。そこに気が付かなければいけません。人間、自分一人では生きていく事なんて到底不可能です。

今から半世紀前、つまり50年以上前の日本人は、田畑を耕し生計をたてている日本人は、全国民の人口比率で48割の日本人が従事していたとい

統計があります。約2人に1人の割合です。しかし現在ほどのくらの日本人が田畑を耕し生計を立てている人がいると思いませんか？何と4割だと言います。それでは44割の日本人はどうしちゃつたのか？今では、スーツに身を包んで、蛍光灯を付け、パソコンの前で1日中座つて仕事をしているというのです。これではいけません。何がいけないのでしょうか？1つ重要な事が抜け落ちてしまつていのです。それは、「自然を相手にしていない」ということです。農業や林業などで生計を立てている人なら、いわずもがな事ですが、種を植えて、時期が来れば自然と作物が出来上がつていっているという様な事は、まずあり得ません。収穫の時期までに必要なのは、太陽の暖かさだったり、自然の恩恵という肥料が無ければ作物が育たない事を知っています。更に、自然災害など、その年その年で何が起こるか分かりませんから、自然に対して畏敬の念を抱いていました。太陽に向かって手を合わせて、自然の恩恵に感謝して、それが生きていく為には、当たり前の事だったので。

ところが蛍光灯はスイッチ1つで昼夜関係なくなります。オフィスの中では、自然の風や空気を感ずる事もできません。また、自然の猛威も気になりません。これでは、「自然の恩恵に、自分が生かされている事に感謝しなさい」なんて事を言う方が、難しい時代になってしまいました。

私自身もそうですが、私達は普段、何らかのペールをかぶって生きています。行商のおばちゃんから総理大臣まで、それぞれに与えられた役割を演じているだけで、裸になればしよせん人間は皆一緒です。その裸の部分に本来の魂の姿、美しい部分や醜い部分が色々あると思います。ペールに包まれたところに真の感動はなく、本質に触れるところにこそ本当の感動があるのではないのでしょうか？

「傷つきたくない」という恐怖は分かれます。しかしそれでは、いつまで経っても小さなプライドを脱ぎ捨てることは出来ません。つまり、本当の感動や感謝、そして命の尊さを噛み締めることは出来なないでしょう。犠牲を恐れずに進まなければな

りません。

「傷つきたくない」というのは、「評価されたい」という、ある意味前向きな気持ちが見え隠れしています。であるならば、「最高の評価は、他人の為に尽くすことによって得られる」という事を知るべきです。

日蓮聖人は『悪に強ければ、善にも強し』と仰っています。

私達にはそれぞれ様々な人生がありますが、どんな困難な状況でさえも、いや困難な状況であるからこそ、いかに楽しく輝いて生きられるかを、模索しようではありませんか。

人生は『負正の法則』で「振り子の原理」と同じです。右と左に行ったり来たりする、あの振り子です。右に振られたのと同じだけ、左に振られている。仮に右が嬉しいことで、左が悲しいことだとすれば、悲しいことがあった分だけ、嬉しいことへ向かって振られていきます。嬉しい出来事(正)は、悲しい出来事(負)を乗り越えてきたご褒美だと思えば、辛いこともシツカリ受け止められるのではないのでしょうか？

この世は因果応報です。今の行動が必ず、未来の結果として表れてきます。

当たり前のことですが、この当たり前がなかなか理解できません。それは「欲」というものがあるからです。ただ、「欲」といっても決して悪い事ではありません。「欲」が無ければ生きていくことができないからです。夢や目標を持つ原動力になっているのも「欲」です。私達はそれぞれに夢や目的を持って生きている。夢や目的を見失った人は、人生なんて苦しくてつまらないものだしと思えないでしょうか。そんな事しか思えない人生なんて寂しいじゃありませんか。私達は、行動することではじめて自分は一人じゃないことを実感できるものです。そこが人生の素晴らしいところだと思います。

檀信徒の皆様、今年一年間もどうかよろしくお願い致します。

合掌 副住職 谷川寛敬



◎唱題行脚実施中

・毎月二十八日午後一時半より



昨年最後の行脚の日の天気予報は、午前午後とも100%の雨か雪。「今年の締めくくりは雨とはね、でもその時が来れば晴れる事が多いので、今日も晴れるかもネ」
「でも今日は100%だから駄目だよ！」
なんてことを言っていたら、あら不思議！

降り続けていた雨が上がり、どんよりとした黒い雲が消え、青空が顔を覗かせてきたのです。本当に不思議なことです。お陰様で私達は、気持ちよく平成二十一年最後の行脚をすることが出来ました。感謝！感謝！でした。今年も気持ちを新たに頑張りましょうね！

先月の参加者

谷川寛敬・高木秋子・蝶涼太・谷川まり子・土居可久子・阿閉薫朗・阿閉江里子・高円富美子・経崎三登志・谷川久仁子